

1) 鯨類に関する調査研究

岡部晴菜¹・小林希実¹・尾澤幸恵¹

キーワード： 鯨類の保全 鯨類の飼育下研究 ホエールウォッチング 地域産業振興

1. はじめに

当財団では鯨類の保全や地域産業振興への貢献を目的に、鯨類の調査研究を実施している。特に絶滅危惧集団とされている沖縄周辺のザトウクジラなど、鯨類の基礎的情報の把握は、生物多様性の維持や海洋生態系全体の保全に必要不可欠である。今年度は当事業において以下の取り組みを実施した。

2. ザトウクジラ等鯨類に関する調査

北太平洋のザトウクジラは、冬季、繁殖（交尾、出産）や育児のため、沖縄等の低緯度海域へ回遊する。例年1-3月には、新生児を連れた雌個体やシンガー（繁殖期特有の鳴音“ソング”を発する雄個体）等が観察される。また、本種は尾びれ腹面の特徴に基づき個体を識別することができる。

令和5年度は、主に本種を対象とした洋上調査を慶良間諸島、本部半島周辺で計40回実施し、約300個体分の識別写真と行動観察データを収集した。沖縄における資源状態を把握するため、統計学的手法を用いた来遊量調査を実施し、学会にて成果を発表した（東京海洋大学 資源解析学研究室と共同）。

今年度は計9個体分の鳴音データを収集し、ソング構造の経年変化に関する研究（英国セントアンドリュース大学と共同）および他8海域との構造比較の研究を開始した（米国Whale Trust、メキシコ大学等と共同）。また、水中での行動を把握することを目的にバイオリギング（行動記録計）を装着する共同研究を開始した（神戸大学、帝京科学大学と共同、写真-1）。

さらに、北太平洋全域での集団構造、個体数推定に関する論文を国外40以上の組織と共同で執筆し、商業捕鯨終了後のザトウクジラの個体数が、2002年時点の18,000頭程から2021年の28,000頭程まで、順調に増加傾向にあることが確認されたこと等を国際学術誌にて公表した。

また、今年度より沖縄県レッドデータブック改訂に伴い、沖縄県からの受託調査として沖縄本島東側海域におけるザトウクジラの生息状況調査を開始した。今後も各種解析を進めていくとともに、国内外の研究組織、関係機関等との連携強化を図る。



写真-1 ザトウクジラ調査にて行動記録計を探す様子

3. 鯨類相調査およびストランディング調査

当財団では、南西諸島周辺にて鯨類のストランディング（漂着、迷入、混獲等）調査を継続的に実施し、学術研究や教育普及活動に役立てている。今年度は4科6種の鯨類のストランディングが確認され、種や場所等の記録、標本の収集を実施した（表-1）。沖縄周辺では、1980年代からこれまでに計500件を超える漂着情報を収集している。今後これらの情報を基に、学術誌等での成果公表を進めていく。

表-1 ストランディングが確認された鯨類

科	状況	種	場所
ナガスクジラ科	迷入、漂着	ザトウクジラ	読谷町、国頭村
マッコウクジラ科	漂着	マッコウクジラ	東村
コマッコウ科	漂着	種不明	名護市、宜野湾市
マイルカ科	迷入	オキゴンドウ	宜野湾市
	漂着	ハナゴンドウ	名護市

4. 飼育鯨類に関連する調査

当財団では鯨類の繁殖、飼育技術の発展および野生個体の保全に向けた生態解明に寄与することを目的に、飼育鯨類を対象とした調査研究を実施している。今年度は、国内外複数組織と共同で、オキゴンドウの代謝率に関する調査を開始した（写真-2,3）。本データを基に、ハワイに生息する絶滅危惧個体群の保全対策に必要なオキゴンドウの基礎的情報の拡充を目指す。



写真-2,3 オキゴンドウの代謝に関する共同研究

5. 保全・産業振興に関わる調査と取り組み

沖縄周辺のザトウクジラは、絶滅危惧集団に指定されている。同時に近年活発化するホエールウォッチングやスイム等の観光産業による影響が懸念されている。そこで、保全と持続的な観光利用の両立を目的に、国内外の研究組織等と共同で、観光ツアーによる影響評価調査を実施した（Pacific Whale Foundation と共同、写真-4）。今年度は沖縄で計 15 回の調査、34 群の行動観察データを収集し、調査レポートを IWC（国際捕鯨委員会）にて提出、発表した。

当財団では、地域産業への貢献を目的に、県内外のホエールウォッチング事業者を対象とした講演会「沖縄ザトウクジラ会議」を開催している。今年度は環境省主催、当財団企画運営にて、ザトウクジラの持続的な観光産業と慶良間諸島の質の高いホエールウォッチングルールなどに関するシンポジウムを行った。今後もザトウクジラの保全と関連した観光産業の持続的可能な産業となるよう、地域の関連事業者や行政への普及活動や連携体制を強化し、保全対策の確立を目指す。



写真-4 国外研究組織との共同影響評価調査

6. 公園管理事業および教育普及分野への貢献

調査研究で得られた成果を広く一般に普及することを目的に、講演会や展示会、講習会を実施した（写真-5）。今年度は、国内 15 件（県内外の小学校、企業、観光事業者等）の依頼講演を受けた。また、水族館にて「ザトウクジラ特設展」を開催した（1-3 月）。会期中に、「クジラの見える水族館」をコンセプトに「ザトウクジラ学習探鯨イベント」を 2 回実施し、約 80 名の参加があった。今後も園内関連施設における展示物の充実と一般への鯨類調査成果の教育普及を目指す。



写真-5 地元観光事業者への船上講習実施の様子

7. 外部評価委員会コメント

沖縄周辺における、ザトウクジラを含む大型、小型鯨類に関する調査、研究の取り組みや、地域の関連組織、事業者や国内外の大学、研究組織との共同研究や連携活動は大変素晴らしく、高く評価する。

（Abel 顧問：シアトル水族館館長）